

平成25年度 生活科の授業改善のための方針

1 本年度の方策

①授業で生かす

＜豊かな自然・人・物との関わり、体験＞

- ・学校探検 ・町（地域）探検
- ・自然観察園 ・家庭でのお手伝い
- ・昔遊び ・他学年との活動の交流（学校案内・フェスティバル）

＜伝え、表現する方法＞

- ・朝のスピーチ ・見つけたよカード
- ・俳句・日記（自然や生活の中での気付き）
- ・インタビュー ・発表会（伝え合う活動）
- ・PCを活用したカードやカレンダー作り

②全校で生かす

＜豊かな自然・人・物との関わり、体験＞

- ・たてわり活動（～朝会、～給食、～遠足）
- ・泉まつり ・地域清掃
- ・昔遊び（独楽、けん玉、百人一首）
- ・自然観察園
- ・教科・総合的な学習では、他学年や学年間で交流する

＜伝え、表現する方法＞

- ・全校児童の前での発表
- ・読書の勧め

2 児童の実態

- ①生活科に対する児童の関心は高く、ほとんどの児童が意欲的に取り組んでいる。
- ②「がっこうたんけん」「まちたんけん」等に意欲的に取り組み、インタビューの内容を工夫することができる。
- ③教室前の花壇や鉢植えの植物の世話を進んでやる子が多く、収穫を楽しみにしている。
- ④一人一鉢のアサガオやトマトの世話は責任をもって行い、植物の成長に気付き喜んでいた。
- ⑤「泉まつり」では、どのようにしたらお店が成功するか、進んで考えを出し、意欲的に取り組める。
- ⑥「きせつをさがそう」では、校庭や学区内の公園で生き物や植物を楽しく観察できる

学年	問題点	重点目標
1年	観察したことの気付きが浅く高めることが苦手。	五感を意識させることや「比べる」「たとえる」など具体的な視点を提示する。
2年	体験したことを言葉で表現する力が不足している。	体験したことを丁寧に想起させ、音声・文字で表現させるための手立てを工夫する。

3 平成24年度の成果と課題（成果☆ 課題●）

☆五感を意識させることや「比べる」「たとえる」など具体的な視点を提示したことにより、気付きを高めることができた。

☆それぞれの体験に連続性をもたせることで意欲が持続し、学習の成果を上げることができた。

（学校探検→学校案内、インタビュー→発表会・新聞作り）

☆季節や地域の自然を教材として取り入れることに努めた結果、身近な自然と触れ合いを楽しむことができた。

☆PCを用いた活動を継続的に行うことで、全員がPC操作に慣れ親しむことができた。

●児童の生活経験の差が大きいため、体験活動の更なる充実と質の向上を目指す。

●観察、体験した内容を表現する方法を指導し、児童の作品を適切に評価することで、次の活動への意欲をもたせる。